

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： わたしはぶどうの木 あなたがたは その枝である

(ヨハネによる福音書 15:5)

保育目標：	0歳児	・自分の周りの人や物に興味を持ち、遊びも広がる。	・寒い中でも元気に過ごす。
	1歳児	・友達と一緒に興味のある物や人に関わって遊ぶ。	・寒い中でも元気に過ごす。
	2歳児	・自分の周りの人と言葉のやりとりをして遊ぶことを楽しむ。	・寒い中でも元気に過ごす。
	3歳児	・友だちの中で自分の気持ちを表現しながら遊ぶ。	・冬の自然を感じる。
	4歳児	・友だちと一緒に遊ぶ物や場を作り、共に遊ぶ。	・冬の自然を感じる。
	5歳児	・友だちと協力し最後までやり遂げる楽しさや喜びを十分経験する。	・冬の自然に関心を持つ。

1月に入り、身体の芯から冷えるような寒さを感じる日もありましたが、ビオトープに張っている氷を見つかけたり、霜を見つけて遊んだり、子どもたちは冬を楽しんでいるようです。

元気いっぱいの子どもでも、余りの寒さに外に出るのを渋る日もあります。ある日、いつものように靴下と帽子を手に取り、外に出たはと組のAちゃん。「つめたい、つめたい！」と言って、つま先歩きでデッキを歩いていました。途中、小さな思いの行き違いで、友だちとトラブルになり、泣き出してしまったAちゃん。保育者も仲介することにより、立ち直ったものの、Aちゃんの中に、『抱っこ』という思いが強くなり、「抱っこして〜。」と、保育者から離れなくなりました。「なんでえ〜？」笑いながら抱っこしていると、「これとこれ、持ってるから出来ない(歩けない)の〜。」というAちゃん。その次は、「寒いからだっこして〜。」と言うAちゃん。

私は、「あっちのお庭は暖かいかな〜？」と、声をかけると、幼児園庭に思いが向き、走り出しました。山に登ったり、滑り台をしたり、他の保育者とも言葉を交わし、遊び始められそうかな？と思った所で、私と目が合い、また「あ！寒いから、抱っこして〜。」というAちゃん。私は、「大丈夫！あったかいよ。走ろう〜。」と、走り出しました。すると、また涙をするAちゃんです。

私は、「寒いね〜。どこか温かい所ないか？探しに行こう。」と、一緒に並んで歩き始めました。地面をさわって、陽の当たる温かいところを探してみようとしたのですが、なかなか見つからず、夢中になっていると、「冷たいね。」と一緒にあって、興味を示し始めたAちゃん。そこで、「あ！石だ！」と、石を拾い始めました。いくつか、手に持ったとき、「これ、ママにおみやげにする〜。」と、話したので、バケツを持って石探しをすることになりました。

隣で私が見つけていると、「お土産にする〜。」と拾っていたAちゃんが、今度は、「一緒にだね〜。」と言ったり、私のバケツにも入れてくれたり……。段々と、遊びになり、心にゆとりが生まれてきたことを感じました。途中、寒い寒いと、抱っこを求めるAちゃんとは、あえて手を繋ぎ、「私の手、あったかいでしょう〜？」と、歩いていました。すると、「ふふふ〜ん♪♪」と鼻歌を歌い、そのうちに自然と手を離し石拾いに夢中になっていました。

この日、Aちゃんは抱っこを叶える為に、泣いて要求をしていました。泣いて訴えたり、抱っこを求めたり、様々な欲求を表現している子どもに出会ったとき、私たちは、そばに寄り添い、気持ちを受け止めていきます。

私はこの時、今のAちゃんには抱っこでなくても寄り添えることが出来ると思っていました。もし、抱っこをして歩いていたら、“石探し”はしなかったでしょう。「何してるの？」と、友だちに話しかけられ、自慢げにバケツを見せるAちゃんには出会えなかったと思います。楽しいことを見つける事、友だちと関わる事を楽しんでいるAちゃん。ひよこ組から今まで、沢山受容される経験をしてきた今だからこそ、Aちゃんの力を信じて関わってよかったと思いました。

子どもが困っていると、つい助けてあげたい、願いをかなえてあげたいと、年齢が小さければそれだけ、そんな気持ちが行先しがちです。しかし、必ずしもその願いが本当にその子が求めていることではないのかもしれないかもしれません。何が今その子にとって必要かを問いながら関われる保育者でありたいと思います。

乳児主任 星野 陽子